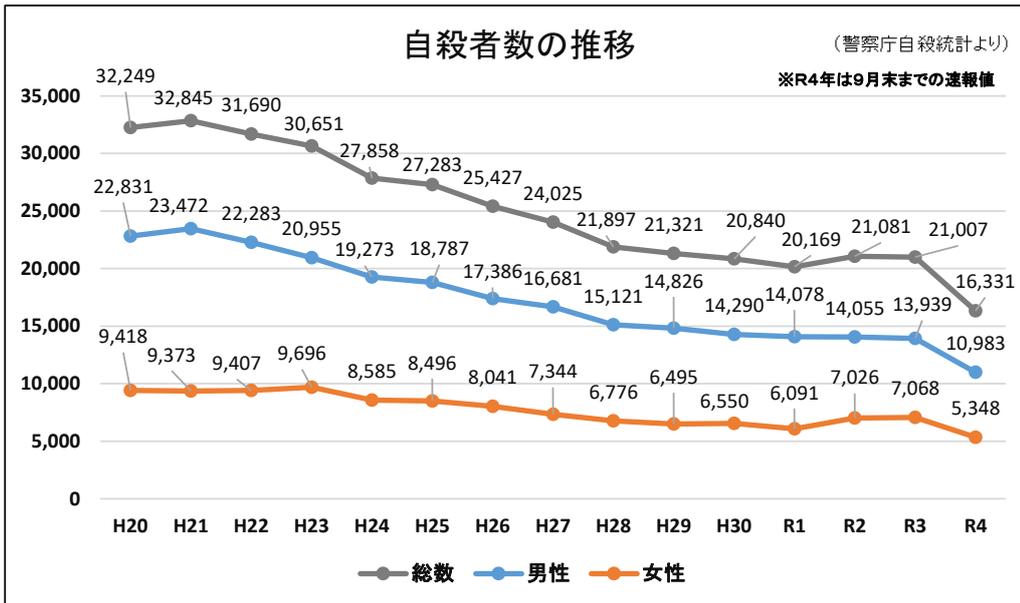
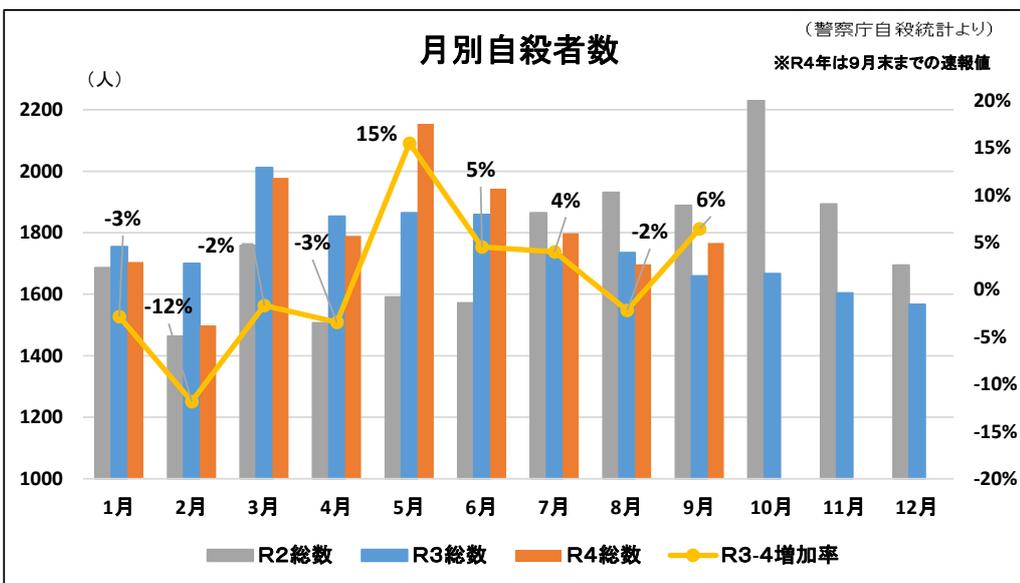


1. 自殺の状況と自殺未遂者支援の実態

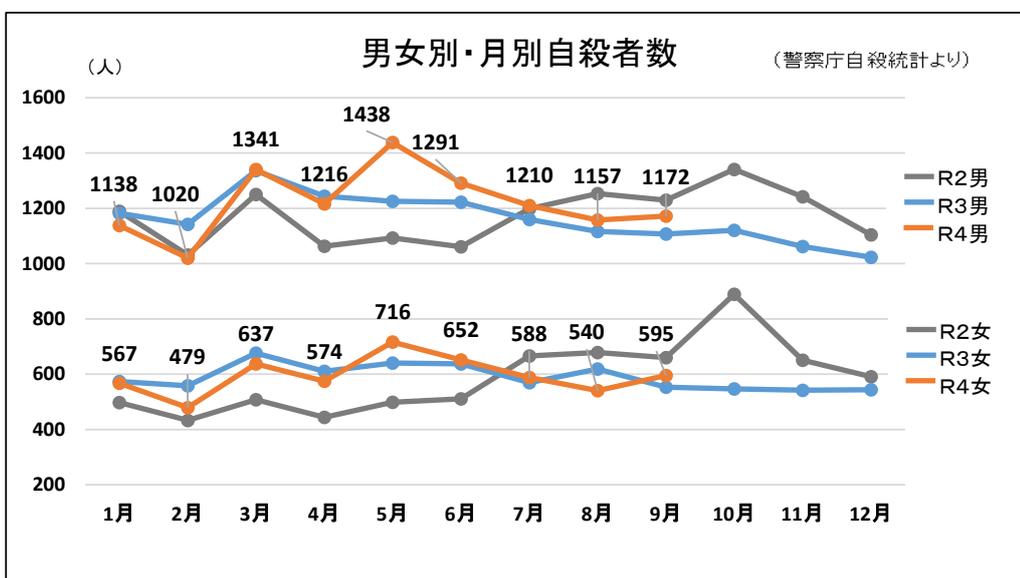
(1) 国の自殺の現状



・国の自殺者数は、平成22年以降、10年連続で減少していましたが、令和2年は11年振りに増加しました。
・令和3年は、総数と男性は減少しているものの、女性は増加しています。

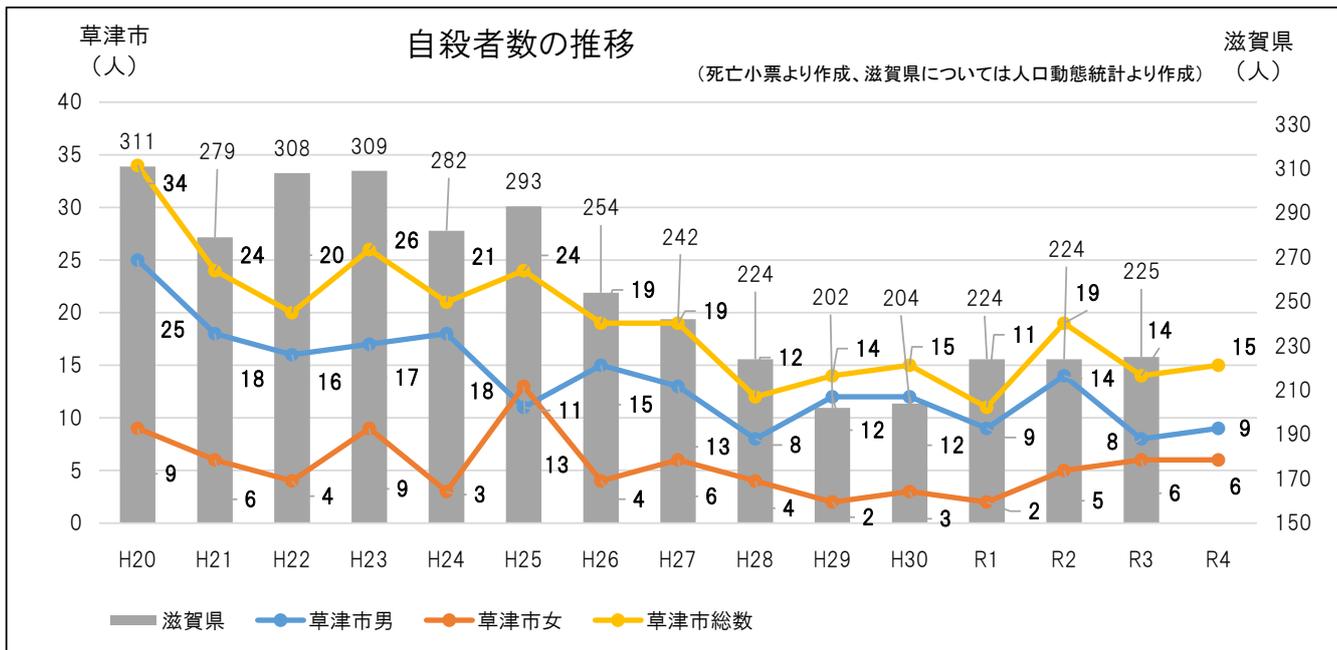


・令和3年は、6月までは令和2年と比べて増加傾向でしたが、7月以降は減少傾向となっています。
・令和4年は、4月までは令和3年と比べて減少傾向でしたが、5月以降は令和3年と比べて増加傾向となっています。



・令和4年は、男女ともに5月の自殺者数が令和2年や令和3年と比べて高くなっています。
・自殺者数は、依然として女性よりも男性が多いです。
・令和2年の後半から増加していた女性の自殺者数は、令和3年以降、増減はあるものの横ばいとなっています。

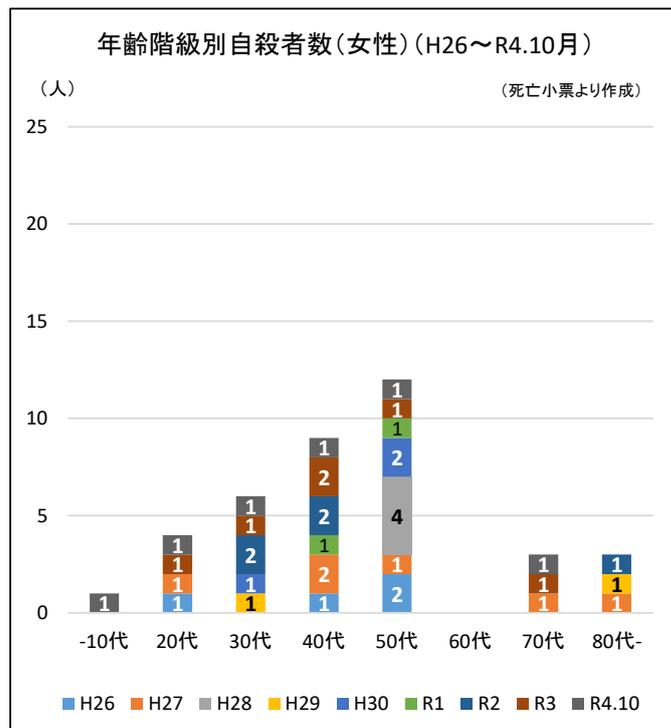
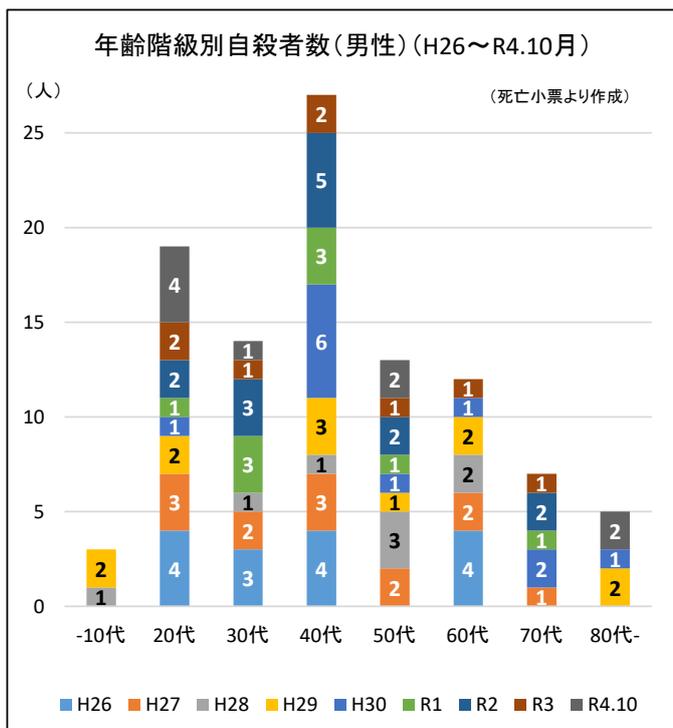
(2)草津市の自殺の状況



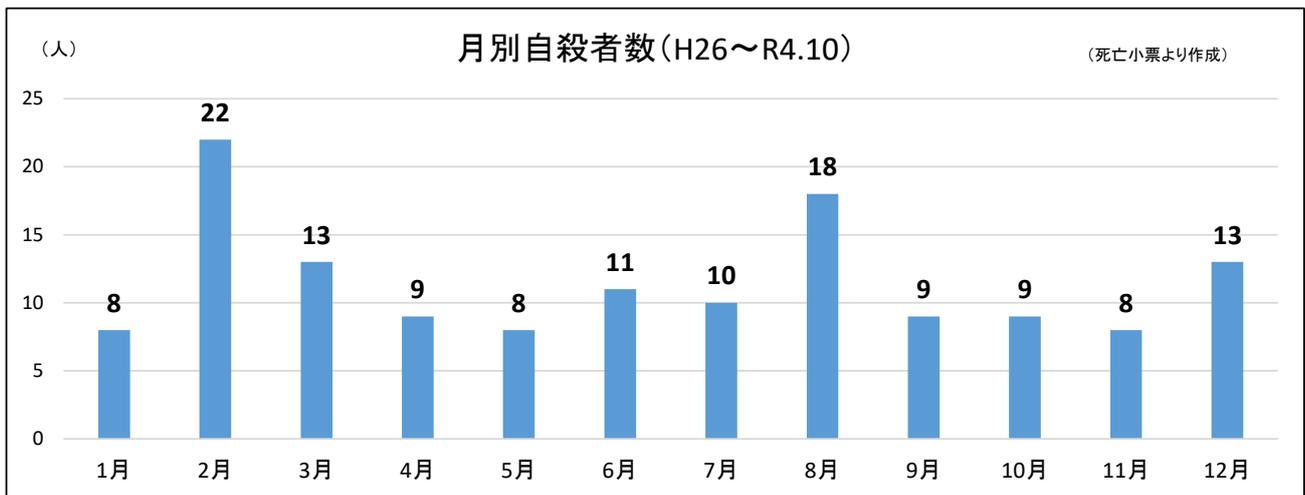
【自殺死亡率:人口10万人あたりの自殺者数】(人口動態統計、草津市の人口・世帯数の推移、死亡小票より作成)

	国	滋賀県	草津市
R3	16.5	16.3	10.2

- ・草津市の自殺者数は平成21年から5年間の平均は23人、その後平成26年から5年間の平均は15.8人と減少傾向でした。平成28年以降、徐々に増加していましたが、令和1年は11人と最も少数となり、令和2年は19人と再び増加しました。令和3年は14人と減少していましたが、令和4年は(令和4年10月把握時点)15人となっています。
- ・女性の自殺者数は低く推移していますが、令和2年以降は、やや増加傾向となっています。



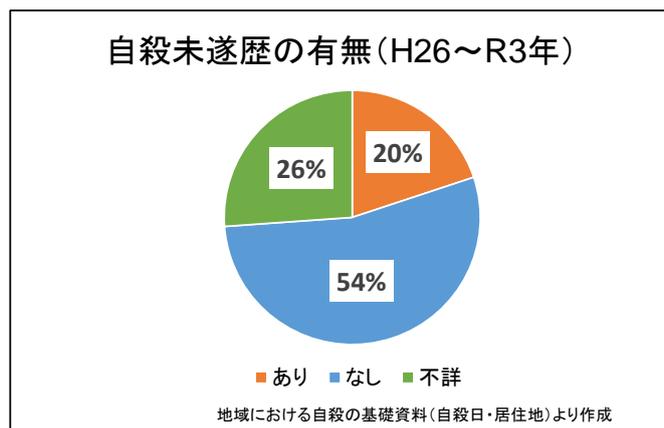
- ・年齢階級別で見ると、男性は40代、20代、30代、50代の順に多くなっています。特に、令和2年と平成30年の40代、令和4年の20代が多くなっています。
- ・女性は、50代、40代、30代の順に多くなっています。特に平成28年の50代が多くなっています。



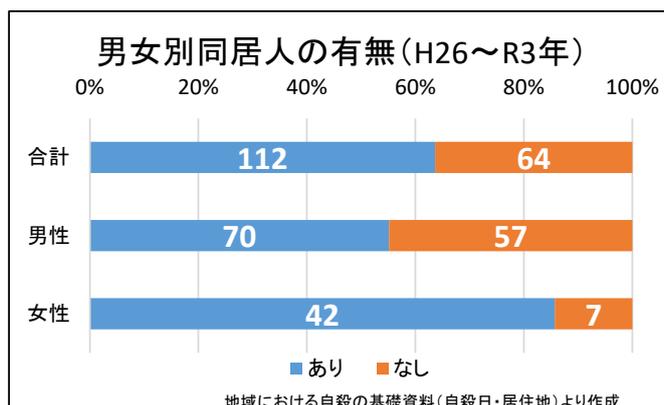
【年齢階級別月別自殺者数(H26～R4.10)】 (死亡小票より作成)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
-10代				1		1	1		1				4
20代	3	4	1	3	1	2		2	2	3	1	1	23
30代	1	3	4	1	2		3	3	2	1			20
40代	2	6	1	2	2	4	3	5		2	4	5	36
50代	2	3	3	1		1	1	4	2	3	1	4	25
60代		2	2		1	1	1		2		1	2	12
70代		2	2			2		2			1	1	10
80代-		2		1	2		1	2					8
合計	8	22	13	9	8	11	10	18	9	9	8	13	138

- ・月別にみると、2月、8月に多くなっています。
- ・2月は40代と20代が多く、8月は40代と50代が多くなっています。

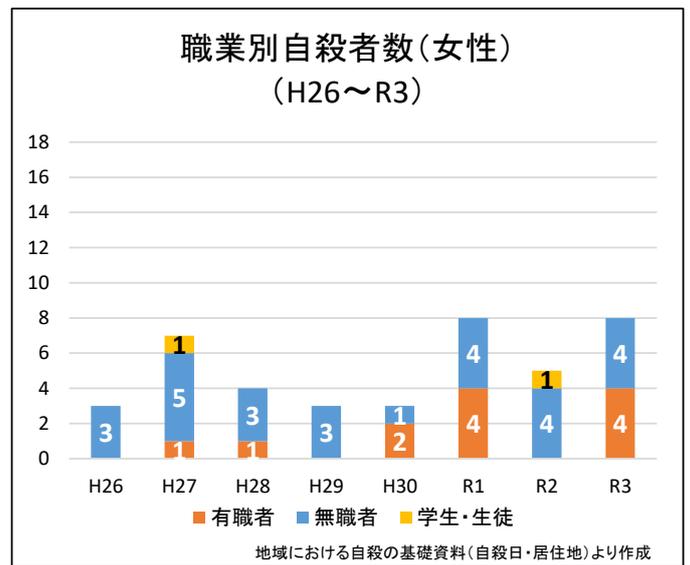
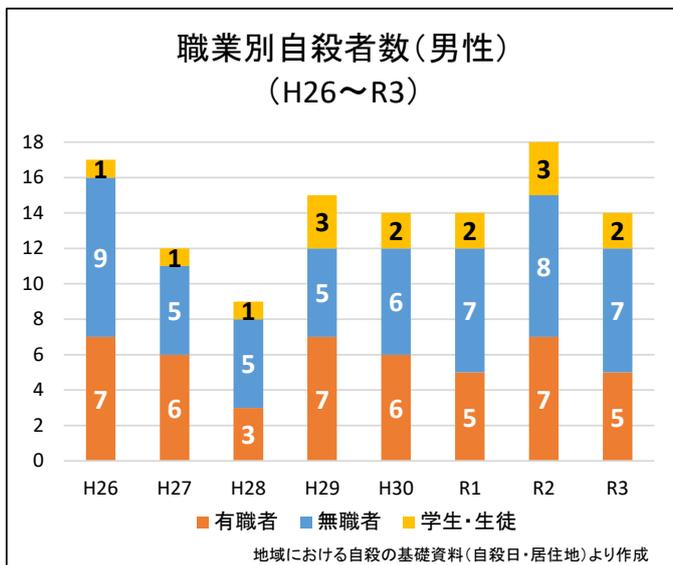


・自殺者の概ね2割の方に、過去に未遂歴があることがわかります。

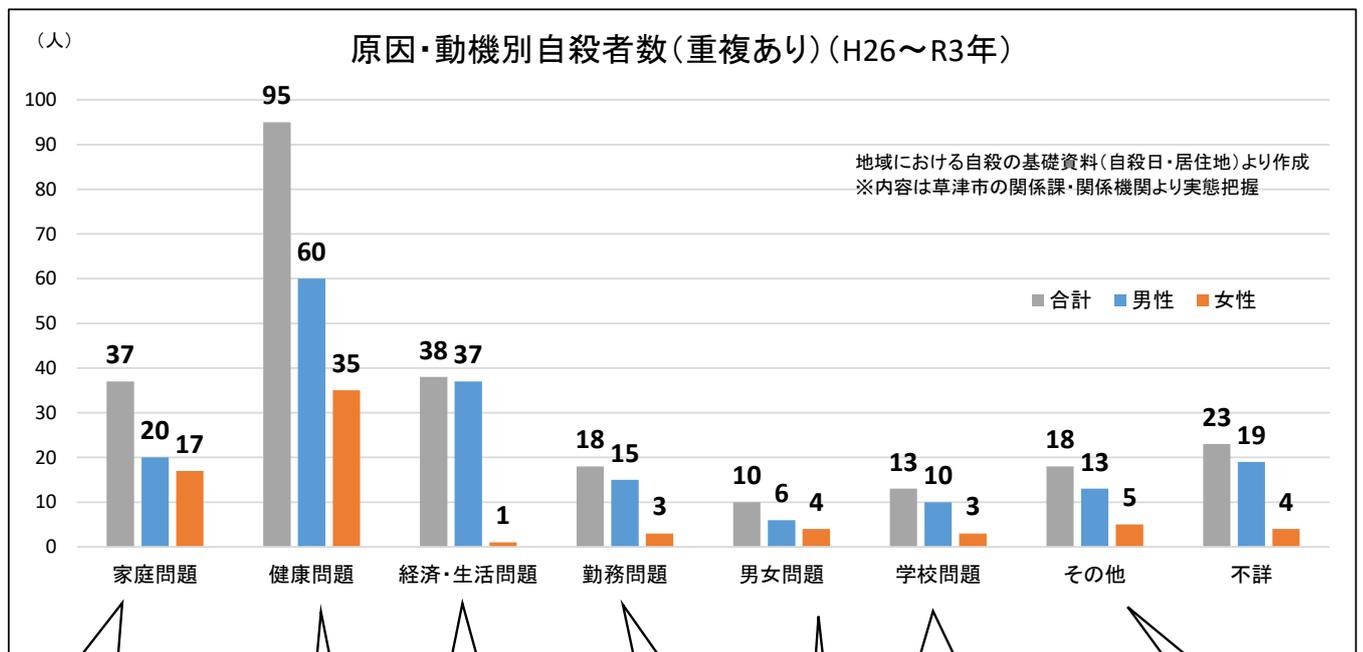


・全体の約6割は同居人があり、女性においては、8割以上に同居人があります。

※ 地域における自殺の基礎資料厚生労働省が毎年作成するもので、警察庁自殺統計のデータを基に、全国・都道府県別・市区町村別に再集計したものです。



- ・職業別にみると、男性においては、例年、有職者と無職者の割合が多いですが、学生・生徒の割合も一定数あります。
- ・女性においては、例年、無職者の割合が多いですが、令和1年と令和3年は有職者の割合が増えています。



親子関係の不和
夫婦関係の不和
家族の死亡
家族の将来を悲観
家族からのしつけ・叱責
子育ての悩み
被虐待
介護・看病疲れ 等

倒産
事業不振
失業
就職失敗
生活苦
負債(多重債務・連帯保証債務) 等

仕事の失敗
職場の人間関係
職場環境の変化
仕事疲れ 等

入試・進路に関する悩み
学業不振
教師との人間関係
いじめ
学友との不和 等

犯罪発覚
犯罪被害
後追い
孤独感
近隣関係 等

病気の悩み・影響
(身体の病気・うつ病・統合失調症・アルコール依存症・薬物乱用・その他)
身体障害の悩み 等

結婚をめぐる悩み
失恋
不倫をめぐる悩み 等